|  |
| --- |
| **エッセイライティングの土台となる11のアカデミックルールをマスター！** |

ライティングでハイスコを取るためには、**IELTS特有のアカデミックルールに従うこと**が重要です。これらはIELTSに限らず留学後のエッセイライティングでも共通する項目です。まずはこの基礎となる3のキーワードを確認しておきましょう。

|  |
| --- |
| **1. Formal（フォーマル）****2. Objective（客観的）****3. Specific（具体的）** |

まず１の**Formal**はライティング特有の「**固い文体と語彙を用いて書くこと**」を指します。つまり友人や家族との日常会話で使うくだけた表現ではなく、**書き言葉を使うこと**が重要です。また、文章も**節主体でなく名詞（句）中心で書く**ことでフォーマル度も高くなり、かつ**Concise（簡潔で無駄がない**）な文章になります。加えて、形式もアカデミックな構成、いわゆるパラグラフライティングのルールに従い書きます。

次に2の**Objective**ですが、アカデミックライティングではSubjective（主観的）な要素を入れてはいけません。例えば「私は～と思う」、「私の経験では～」、「～は素晴らしい」など個人の体験や評価を述べることは原則不可です。ただしTask 2では一部可能ですので、これは後程詳しく解説していきます。

3の**Specific**に関しては「**具体例を入れ、具体的な表現を使う**」というマインドを持ってください。より詳細な例を書くことが6.0以上を確実にゲットする方法です。語彙についても日常会話向きの意味が広く曖昧な語（General words: 例 get, good）の使用は避け、意味が明確な語を使うようにしてください。

ここからは具体的にこの3項目を中心にIELTSのライティングに焦点を当てながら11のルールを見ていきましょう。

**1. Formal（フォーマル）**

**〇 ルール１ – 短縮形で書かない❢**

IELTSをはじめとした（セミ）アカデミックライティングでは**短縮形（contraction）**は使いません。次のように短縮形を使わずに書いてください。

✖ It’s easy to buy goods on the internet today.

〇 **It is easy** to buy goods on the internet today.

**〇 ルール 2 –And, But, Soは文頭で使わない❢**

この3語を**文頭で使うことは不可**です。新聞、ニュース、またインフォーマルなエッセイでは文頭で使われることもありますが、IELTSをはじめとするフォーマルなエッセイでは使用禁止です。

よって、文頭で使う場合は次の副詞を用いて書くようにしましょう。

・but ⇒ **however / nevertheless / nonetheless**

・and ⇒ **in addition / additionally / moreover / furthermore**

・so ⇒ **therefore / as a result / for this [these] reason(s) / consequently**

また、これと関連して、soを文中で使うことも控えてください。

[△] The consumption of the world’s natural resources is rapidly increasing around the world, **so** urgent action must be taken to improve this situation.

（世界の天然資源の消費は世界中で急速に増加している**ので**、この状況を改善するために早急な措置が取られなければいけない）

このsoの用法も少しカジュアルなので、一度文を句切り、ThereforeやFor this reason等に変えて、～ around the world. **Therefore [For this reason]**, urgent action ….のようにします。また、最初のS Vが比較的短ければ（10語前後）、文を切らずにand thereforeを使い、**S V, and therefore, S’ V’**.、あるいはセミコロンを用いてS V**; therefore**, S’ V’.のように書くようにしてください。

**〇 ルール 3 - フォーマルな単語を使う！**

これはエッセイにふさわしい「**書き言葉を使うこと**」を指します。言語には一般的に「文体/フォーマル度」という概念があり、英語では**register**（= **the degree of formality**）や**style**と呼ばれます。これはいわゆる表現がどの程度カジュアルか、固いか、ということを意味します。例えば、「めっちゃ楽しい旅行」はカジュアルですが、「非常に充実した旅行」とすると固い響きになります。同様に、日常会話でmoreover, therefore, enableなどの論文で使われるような語を使うと不自然で浮いてしまいます。つまり、それぞれの単語が書き言葉、話し言葉なのかを理解して使い分ける力が重要です。まずはこのフォーマル度の基本的な概念を表した以下の表をご覧ください。

**フォーマル度 低 　 中間 　 高**

**スタイル** **Informal 　 Neutral** 　  **Formal**   **Literary**

フォーマル度は矢印の右に行けば行くほど高くなり、文体も固くなります。ではこの4つのスタイルを左から順に一つずつ見ていきましょう。

**◆Informal（話し言葉）**

Colloquialとも呼ばれ、友人や家族との日常会話で使う「くだけた語彙」と考えてください。例えばamazing, nice, too much, besidesや、find outなどの**phrasal verbs**（句動詞）が含まれます。

**◆ Neutral（中間語）**

Standardとも呼ばれ、書き言葉、話し言葉の両方で使われる語彙を指します。例えば、improve, many, knowledge, experience, also, instead ofなど、分野を問わず幅広く運用が可能です。

**◆ Formal（書き言葉）**論文やフォーマルな討論、ニュースなどの堅い文章に使われるような**Academic vocabulary**（**アカデミック語彙**）がその代表例です。また、上記のNeutralとFormalの中間に位置するSemi-formal（準フォーマル）という分類もありますが、すべての単語の明確な線引きが難しいため本書ではこのFormalの部類に含めています。

**◆ Literary（文語）**

詩や公文書などで使われる非常に硬い語のことで、IELTSはじめアカデミックライティングでも使われることはまれです。例えばwed（契りをかわす）やforlorn（わびしい）などの文学的な語や、aforementioned（前述の）やlitigation（訴訟）等は法律でよく使われますが、エッセイで使うと固すぎて浮いてしまいます。

このことから**NeutralとFormalの語を用いて文章を書く**ようにしてください。以下に誤って使いがちな語を挙げておきますので、インフォーマルな語は代替語に置き換えて書くことを心がけましょう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **✖（不可）** | **代替語** | **✖（不可）** | **代替語** |
| kids | (young) children | a lot of / lots of | many / numerous  |
| really / pretty | particularly / fairly / highly | of course | indeed / it is true that |
| make better | improve / upgrade / enhance | actually | in fact / in reality |
| make worse | worsen / exacerbate / aggravate | totally | completely / entirely |
| besides | moreover / additionally | a little bit | slightly / somewhat |
| everybody | every individual [person] | maybe | perhaps / probably |
| more and more | a (n) increasing [growing] number [amount] of ~ | and so on | 書かない。A, B and C.のようにする。 |

この他にも次の語はインフォーマルなので、使わないように注意しましょう。

all in all / pros and cons / all things considered / it goes without saying that

〇 **ルール 4 - 句動詞を使わない！**

「**句動詞**」とは「動詞＋前置詞or副詞」で構成される**熟語動詞**（**phrasal verb）で**、アカデミックライティングでは使用してはいけません。keep on（～を続ける）やgo down（減少する）などがその一例で、これらはそれぞれkeep onはcontinueに、go downはdecreaseやdeclineに変えます。以下に代表的な例を挙げておきますので適語を選んで書くようにしましょう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **✖（不可）** | **代替語** | **✖（不可）** | **代替語** |
| think about  | consider / regard | give up  | abandon / renounce |
| get over | overcome / recover | put up with  | endure / tolerate / bear |
| work out | solve / tackle / address | get rid of  | eliminate / remove / eradicate |
| find out | discover / detect / locate | go up  | increase / rise / grow |
| set up | initiate / launch / found | go down | decrease / decline / drop |
| look into  | investigate / inspect | make out | comprehend / recognise |

ただし一部例外として、**Academic phrasal verb**（**アカデミック句動詞**）と呼ばれる句動詞があります。これはライティングでも使用可能で、lead toやfocus onなどが代表例です。以下によく用いる表現をいくつか挙げておきますので活用していきましょう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| abide by | ～を順守する | be divided into  | ～に分かれる |
| add to  | ～を増大させる | engage in | ～に従事する |
| allow for | ～を考慮する | fall into  | ～の状態になる |
| cancel out | ～を相殺する | originate in | ～に起源がある |
| capitalise on  | ～を利用する | point out  | ～を指摘する |
| conform to | ～に従う | reflect on | ～をよく考える |
| consist of  | ～から成る | result [stem] from | ～が原因である |
| compensate for | ～を補う, 償う | result in | 結果～となる |
| depend on  | ～に依存する | specialise in | ～を専門とする |
| be derived from | ～に由来する | participate in | ～に参加する |

**〇 ルール5 – notを使わない！**

これは特に形容詞や動詞を使う際に必要なテクニックで、not＋形容詞[動詞]で書くよりも、「**否定の接頭辞**＋形容詞[動詞]」で表す方がフォーマル度がアップします。例えばnot healthyよりも**unhealthy**、not impossibleよりも**impossible**といった形です。以下の例で詳細を確認しておきましょう。

[△] I **do not agree** with the statement. → [〇] I **disagree** with the statement.

[△] The data was **not relevant** to the topic. → [〇] The data was **irrelevant** to the topic.

このように単語により否定の接頭辞が異なります。以下によく使う否定を表す接頭辞を持つ語の一例を紹介しておきますので身に付けておきましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| **un -** | **in / im** |
| **un**clear | **un**likely | **in**valid | **im**polite |
| **un**reliable | **un**stable | **in**effective | **im**practical |
| **un**available | **un**predictable | **in**active | **in**appropriate |
| **il -** | **ir-** |
| **il**legal | **il**literate | **ir**rational | **ir**responsible |
| **il**legible | **il**logical | **ir**relevant | **ir**regular |
| **dis – (形容詞)** | **mis - （動詞）** |
| **dis**satisfied | **dis**similar | **mis**use | **mis**understand |
| **dis**proportionate | **dis**respectful | **mis**lead | **mis**treat |
| **dis - （名詞）** | **dis – (動詞)** |
| **dis**order | **dis**agreement | **dis**agree | **dis**approve |
| **dis**regard | **dis**advantage | **dis**obey | **dis**miss |

**〇 ルール6 - Rhetorical questionとClicheは使わない –**

**Rhetorical question**とは「修辞疑問文」を意味します。疑問を投げかけることによって読み手に思考を促すための手法で、新聞の見出しやスピーチなどの冒頭でよく用いられます。次のような文がその例です。

・ Can we measure happiness? （幸せは測ることができるのだろうか）

・ Is space exploration worth the cost?（宇宙探索は投資に見合っているのだろうか）

アカデミックなライティングではこれらの使用は禁止です。続けて、**Cliché**とは「陳腐な表現」を意味します。これには、proverb（ことわざ）や、偉人などの「格言」（Adage）なども含まれすべて使用禁止です。いくつか例を確認しておきましょう。

the other side of the coin（物事の裏側）/ In a nutshell （要するに）

In this day and age（現代においては）/ In the current climate（現在の情勢では）

When in Rome, do as the Romans do.（郷に入っては郷に従え）

Genius is one percent inspiration and ninety-nine percent perspiration.

（天才とは1%のひらめきと99%の努力でできている：エジソンの言葉）

これらはインフォーマルかつ意味をなさないことが多いのでIELTSも含め、アカデミックライティングでは使用不可です。

**2. Objective（客観的）**

**Objective（客観的）**とは、エッセイ中に感情的な表現を入れることなく、書くための重要な項目です。では3つのルールついて見ていきましょう。

**〇 ルール 7– Impersonalな表現を使う❢**

Objectiveな重要な要素の一つして「**Impersonal（非個人的）に書くこと**」が挙げられます。これは**人証代名詞（I, we, youなど）を使わずにエッセイを書く**という意味です。まずはこの3語については次のように理解しておいてください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **種類** | **Task 1** | **Task 2** | **コメント** |
| **①** | I, my, me | × | △ | Task 2のみで使用可能。 |
| **②** | we, our, us | △ | △ | 使用可能だが使わない方が良い。 |
| **③** | you, your | × | × | 話し言葉なので使用不可。 |

まず①は、エッセイで自己のスタンスを「**イントロダクションで書く場合**」と、「**コンクリュージョンで再主張（restatement）する場合**」以外は不要で、**ボディパラグラフではIやmyを使う必要はありません。**Task 2では次の表現を覚えておけば十分です。

**➤ I believe / In my opinion / I mostly agree / I would argueなど**

I thinkは主張が弱いのでやめ、また、時々From my point of view / It is my belief that / I am of the opinion thatのような表現を使う方がいます。しかしながら、ここでバラエティをつけるのは無意味なので不要です。

次に②のwe / us /ourに関しては、許容範囲ですが、6.5以上を目指すのであれば使わない方が良いでしょう。実際のところ色々な試験官と話す中で、weの使用については少し意見が分かれます。目につかなければ良い、自然に使えていれば構わない、という人もいます。ただし一致する意見としては、**ハイスコアのエッセイ（目安として7.0以上）はwe, us, ourが使われていない傾向が強い**、という点です。さらには、留学後の**エッセイライティングでもこの3語を使うことは極めて少ない**ので、留学前から使わずに書く習慣をつけておくことが大切です。

ではこの3語を使わずに書く方法を見ていきましょう。

**Task 1（グラフや図中の数値や特徴を描写する場合）**

[△] **~~We can clearly see~~** that the sales amount significantly increased in the 1990s.

➤ [〇] **It is clear** that the sales amount significantly increased in the 1990s.

 [△] **~~We can see~~** significant growth in the number of foreign tourists visiting Europe.

➤ [〇] Significant growth **can be seen** in the number of foreign tourists visiting Europe.

**Task 2** 主に次の5つのアプローチでwe/us/ourの使用を回避することができます。

文脈に応じてこの方法を使い分けます。例文で確認しておきましょう。

**① weをindividualsやevery individual [person] （個人, 1人1人）に変える**

**例) Individuals**[~~We~~] need to take action to reduce plastic waste.

**② usをthe planet（地球）, community（地域）, society (as a whole)（社会）に変える**

例1) Pollution is one the most serious environmental problems facing **the planet** [~~us~~].

例2) Museums are important to [~~us~~] both **communities** and **society as a whole**.

**③ ourをpeople’s（人々の）やindividual（個々の）, public（市民の）に変える**

例1) Sport can improve the quality of **people's** [~~our~~] lives.

例2) Maintaining health is an **individual** [~~our~~] responsibility.

例3) Recent extreme weather increase **public** [~~our~~] concern over global warming.

**④ 主語をgovernment and businesses（政府と企業）のように特定の機関 に変える。**

例) **Both governments and businesses** must take urgent action to protect the environment.

この他にもthe world, wealthy countries, world leaders, politiciansなどコンテクストに合わせて特定の名詞を主語にすることも可能です。

⑤「**受動態」を使って書く。**~ by usのように動作主は不要。

例1) **Action must be taken** [~~We must take action~~] to protect the environment.

例2) **This problem can be solved** [~~We can solve this problem~~] through international

cooperation.

最後に補足ですが、例えば、「**（我々）人間**」と書く場合、特に動植物やロボットなどと対比する際は**humans**を使います。また、「**（我々）日本人は**」と言いたい場合も、**Japanese people**のように明確に書くようにしましょう。

**〇ルール 8 – EmotiveやJudgementalな語彙を使わない❢**

アカデミックライティングでは「**感情を表す表現**」（**emotive language**）や「**個人的な評価を表す表現」**（**judgemental language）**の使用、いわゆる**value judgement**は禁止です。ではいくつか不適切な例を挙げてみます。太字の語彙に注目してください。

① The discovery of DNA in the 20th century was a **fantastic** scientific development.

② Einstein is **definitely** the most prominent figure in the history of science.

下線部はそれぞれ、①は「素晴らしい」、②は「間違いなく」、という意味で**主観的な感情や価値判断**が含まれているのがわかりましたか？これらは不適切なので、次のように変えれば客観的な表現に変わります。

① fantastic → **major / large / significant**

② definitelyを**one of the most prominent figures**に変える、あるいはdefinitelyをarguably（おそらく～）に変え、**arguably the most prominent figure**にする

ちなみに、厳密には**I believeやI disagreeなども主観的なのでアカデミックエッセイでは使用不可ですが、Task 2では可能**です。では最後に、特にTask 2で使いがちなemotive / judgementalな語をまとめましたので、使わないように注意しましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| **形容詞** | **副詞** |
| happy / sad / interesting / fantastic / excellent / wonderful / awesome / horrible / shocking unbelievable / brilliant / bad / terrible  | really / very / definitely / absolutely / incredibly / luckily / fortunately / surprisingly  |

**〇ルール 9 –　語気を和らげ断定表現を避ける❢**

突然ですが、問題です。次の2文はアカデミックライティングでは不適切な英文です。どの部分を改善するべきか考えてください（文法、語法のミスはありません）。

① Women live longer than men.

② Working abroad is a valuable experience.

わかりましたか？答えは2文とも**「断定的な響きがある**」という点です。つまり①は「**全ての**女性は**例外なく**男性より長生きする」、②は「海外での就労は**間違いなく**有益な経験である」という響きがあります。IELTSを含むアカデミックライティングでは、このような「**断定的な表現**」（**categorical statement**）は確固とした証拠やデータがない限り使いません。つまり「概ね当てはまるが、そうでないこともある」という場合は**語気緩和が必要**です。よって、この2文は次のように変えると自然な文になります。

① Women **typically** live longer than men ➤ 副詞typicallyを追加

（**一般的に**女性の方が男性よりも長生きする）

② Working abroad **can** be a valuable experience.➤助動詞canを使用

 （海外での就労は貴重な経験になりうる）

このように断定表現を避け、語気緩和を行うことを**Hedging**と言います。ここでは以下の6つのhedgingテクニックを紹介していきます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **用法** | **使用する主な表現** |
| **1** | **助動詞** | can / may / might / could |
| **2** | **動詞** | appear / tend to / suggest / help / have the potential to be estimated to / be believed to / be considered  |
| **3** | **形容詞** | many /most / potential / likely / possible / unlikely / primary some / a number of / approximate |
| **4** | **副詞** | perhaps / likely / arguably / apparently / in part / sometimes / usually / generally / largely /slightly / relatively / on average |
| **5** | **There is ＋ 名詞** | There is some chance that / There is a tendency for ~ to doThere is a (strong) possibility / There is a high likelihood that |
| **6** | **Itで始まる定型表現** | It seems [appears] that / It is often pointed out thatIt is generally believed that / It is likely [probable] that |

(1) Economic growth **may** improve the lives of everyone.

（経済成長は人々の生活を向上させる**可能性がある**） ➤助動詞を用いた1の用法。

(2) Children **tend to** favour outdoor activities.

　　（子供は屋外での活動を好む**傾向にある**）　➤ 動詞を用いた2の用法

(3) Agriculture is the **primary** cause of pollution.

（農業が汚染の**主な**原因である）　➤ 形容詞を用いた3の用法

(4) Automation is **largely** responsible for job losses.

（自動化が雇用減少の**大きな**原因である）　➤ 副詞を用いた4の用法

(5) **There is a high likelihood that** polar bears will become extinct.

（ホッキョクグマは絶滅の**可能性が高い**）➤ There is ＋名詞を用いた5の用法

(6) **It appears that** job satisfaction is more important than job security.

（仕事の安定性よりも、やりがいの方が大切だと**思われる**）

**➤ Itで始まる定型表現を用いた6の用法**

この他にも、次のように「**one of the 最上級＋複数名詞**」の用法や、上記の6つの組み合わせもよく使われます。

・ London is **one of the most vibrant and culturally diverse\* cities** in the world.

　　（ロンドンは世界でも非常に活気があり、文化的多様性がある都市の一つである）

➤ **one of the 最上級＋複数名詞の用法**

・ **Some** food packaging contains **potentially** harmful chemicals.

（食品包装の中には、有害になる可能性のある化学薬品を含んでいるものもある）

➤ 形容詞のsomeと副詞のpotentiallyによる組み合わせ

以上でhedgingの基本的な使い方と、その役割はおわかりいただけましたか?

ちなみに、hedgingの使いすぎは不自然に響くこともあるので、どの程度の語気緩和が必要かを慎重に考えて運用するようにしましょう。

以上でObjective（客観的）に関するレクチャーは終了です。次は最後の項目**3. Specific（具体的）**についてです。あと少しです。少しブレイクして気合を入れなおしてまいりましょう！

**3. Specific（具体的）**

読み手や聞き手を納得させるためには、何事も**具体的に表現すること**が大切です。本題に入る前に、まずは英語と日本語の言語上の大きな違いを知っておく必要があります。それは、日本語は「**文脈依存度が高い行間を読む言語**」ということです。つまり「**状況から判断して言わなくてもわかるだろう**、**わかってくれるよね、雰囲気でわかってね**」という発想ですが、英語は「**文脈依存度が低い言語」**なので**はっきりと具体的に表現して伝えなければいけません**。この具体的にとは、語彙、表現方法、内容であったりと様々です。ここではライティングに必要な具体的に表現するためのテクニックをマスターしていきましょう。

**〇ルール 10 - 意味が具体的なワードを使う❢**

専門用語を除き、語彙は主に**General word**と**Specific word**に分類されます。前者は意味が広く、文脈によって意味が変わる「**一般語彙**」のことを指します。例えばget, make, goodなどインフォーマルな会話向きの語で、先ほど**Formality（フォーマル度）**の項目で触れたInformalに分類されます。一方**Specific word**はより具体的な意味を持つ単語を指します。例えば「～を作る」という場合、makeはどのように作るかが曖昧な意味が広いGeneral wordですが、**create**は「これまでにない新しい物、状況を作る」、**generate**は「利益やお金、エネルギーを生み出す」、**produce**は「製品、農作物、作品などを作り出す」、**manufacture**は「大量に機械で生産する」などは意味が明確なSpecific wordで、ライティングではこちらを用いなければいけません。

理由は非常にシンプルで、スピーキングと異なりその場で**相手に質問できないから**です。つまり会話では、その都度説明を求めることができますが、当然ライティングではそれができません。したがって、エッセイでは読み手が一度読んで理解、納得できる明確な語彙を使う必要があるということです。以下に使う機会が多いGeneral wordと、Specific wordの対象表を紹介しておきますので、文脈に応じたSpecific wordを使い書くことを心がけましょう。

**General word / Specific word一覧**

注意：\* が付いている語は使用可だが、specific wordを使う方がよい。

|  |  |
| --- | --- |
| **General word** | **Specific word** |
| **do** | perform / hold / conduct / commit / practise / organise / implement |
| **make** | create / produce / generate / build / construct / establish / invent |
| **get** | gain / acquire / obtain / achieve / collect / receive / earn / purchase |
| **give** | provide / offer / distribute / feed / support / supply / allocate / donate |
| **check** | examine / investigate / inspect / inquire / study / explore / monitor |
| **keep** | maintain / retain / preserve / conserve / sustain / store |
| **think\*** | believe / consider / reflect / assume / regard / envisage  |
| **use\*** | consume / spend / employ / utilise / exploit / apply / exhaust |
| **find\*** | discover / identify / locate / detect / unearth / search  |
| **change\*** | alter / modify / transform / adjust /amend / replace / shift |
| **good** | positive / appropriate / suitable / valuable / effective / meaningful / beneficial / efficient / productive / precise / rewarding |
| **well\*** | appropriately / properly / efficiently / skilfully / resourcefully |
| **bad** | negative / inappropriate / unsuitable / harmful / adverse / useless / pointless / incorrect / inefficient / detrimental |
| **big** | large / significant / substantial / tremendous / massive / extensive / vast / spacious / huge / cumbersome / heavy / overwhelming |
| **way\*** | method / approach / strategy / procedure / practice / technique  |
| **people\*** | students / participants / residents / tourists / consumersなど |
| **thing / stuff** | issue / matter / element / factor / aspect / decision / choiceなど |

・peopleは文脈に合わせて具体的な名詞を選んでください。

・thingも文脈に応じて適切な語彙を選択してください。

**〇 ルール 11 – 対象を絞り込んで表現する❢**

次の英文の下線部①、②は改善が必要な個所です。その理由と、どのように改善すればいいか考えてください。

|  |
| --- |
| Students should take advantage of internship opportunities while at university because this experience allows\* them to learn ① various skills, which will likely be helpful ② in the future. 　　  \* allow A to do: Aがdoするのを可能にする |

わかりましたか？まず、理由は「**抽象的**」だということです。つまり、①は**various skillsがどんなスキルか不明瞭**、②は**in the futureが、いつのことか（卒業後、子供ができたら、退職後など）が曖昧**です。よって、①と②は次のように具体的な表現に変えると伝わる英語になります。

|  |
| --- |
| Students should take advantage of internship opportunities while at university because this experience allows them to learn ① **various practical skills such as teamwork and public speaking**, which will likely be helpful ② **after they have entered the workforce.** |

①はsuch asを用いて、teamworkとpublic speakingという具体例を挙げており、②も「**社会に出たら**」のようにin the futureがより明確に表現されていますね。このように常に「specificに表現する」というマインドを持って英語を発信することが重要です。ここではこのspecific発信する具体的な３つのアプローチを紹介していきます。

**〇 アプローチ 1 – such as / like / includingなどを使い名詞を列挙する**

これが最もシンプルで、**A such as [like] B and C**.（BやCといったA）のように書きます。例えば上記のpractical skills **such as teamwork and public speaking**のような形で、**テーマ別の関連語彙**を2つか3つ列挙してください。例を見てみましょう。

・ Research shows that health problems **such as obesity and diabetes** are becoming increasingly serious among young people.

（研究によれば、肥満や糖尿病といった健康上の問題が若者の間でますます深刻化している、とのことである）

➤obesity and diabetesのように分野別語彙を入ることで、具体性がUPしていますね。

ただし、認知度の低い専門用語や、略語、または日本人しか知らないような語彙は使用を控えてください（使う場合は説明が必要）。加えて、vegetables like onions and carrotsのような平易な語彙は列挙しても意味がないので知っておいてください。

**〇 アプローチ 2 – especially / particularly / related to / associated withを使う**

抽象的な内容を述べてから、対象を絞り込み具体的に書く方法です。

① House prices have been rising in Australia, **particularly** in Sydney and Melbourne.

（オーストラリアの住宅価格は、特にシドニーとメルボルンで上昇し続けている）

➤ particularlyを加えることで、オーストラリアのどこか対象を絞りこんでいますね。

② A growing number of companies are recruiting workers with practical experience and skills **associated with** marketing and management

（ますます多くの企業が実務経験と、販促、運営に関連した技術を持ち合わせた従業員を採用している）

➤ associated with（～に関連した）を使い、スキルを明確に表しています。

**〇 アプローチ 3 – 後置修飾で情報を加える**

これは名詞に前置詞句、形容詞、関係代名詞などの句を付け足す方法です。特に**what, where, when, why, howの5W1H**の観点から考え情報を加えるとより明確にアイディアが出やすくなります。まずは簡単な例から見ていきましょう。

[△] Studying abroad allows students to meet new people.

[〇] Studying abroad allows students to meet new people **from a diverse range of backgrounds.**

➤「多様な背景を持った」という前置詞句を加えることで具体的になりましたね。

[△]Children tend to easily break school rules.

[〇] Children **lacking proper parental discipline** tend to easily break school rules.

➤下線部でchildrenを後置修飾することで、 「しっかりとした親のしつけがされていない子供」のようにどんな（what）が明確になり具体性がアップしました。

以上で**11のアカデミックルール**についてのレクチャーは終了です。お疲れさまでした。見慣れない用語や、表現が多かったかもしれませんが、少しずつマスターし、エッセイライティングの質を向上させましょう！